

2024 年 7 月 17 日

Press Release

報道関係・教育担当記者 各位

南山大学社会倫理研究所・上智大学生命倫理研究所 第14回共催シンポジウム2024

「〈独りであること〉の社会倫理～孤独と孤立の問題性を問い直す」開催のお知らせ

平素は、本学の広報活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、下記の通り、南山大学社会倫理研究所・上智大学生命倫理研究所共催第14回シンポジウム2024を開催いたします。つきましては、取材、報道にてお取り扱いいただき、広く一般に周知いただければ幸いです。

なお、恐れ入りますが、取材をご希望される場合は、事前に南山大学社会倫理研究所までご連絡をお願いいたします。

記

日 時：2024 年 8 月 1 日（木）14:00～17:30

場 所：南山大学 R 棟 4 階 R49 教室

全体テーマ：〈独りであること〉の社会倫理～孤独と孤立の問題性を問い直す

報告者：①太刀川弘和氏（筑波大学医学医療系災害・地域精神医学教授）
②石神真悠子氏（東洋英和女学院大学人間科学部任期制嘱託講師）
③佐藤啓介氏（上智大学大学院実践宗教学研究科教授）

討論者：森山花鈴（南山大学社会倫理研究所第一種研究所員／法学部准教授）

司 会：奥田太郎（南山大学社会倫理研究所第一種研究所員／南山大学人文学部教授）

主 催：南山大学社会倫理研究所

共 催：上智大学生命倫理研究所

詳しくは、<https://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/activities/activities/symposium/028226.html> をご参照ください。

以上

〈 独り でいること〉 の社会倫理

～ 孤独と孤立の問題性を問い直す

討論者

森山花鈴

(南山大学社会倫理研究所第一種研究員／
法学部准教授：政治学、政策過程研究、自殺対策研究)

司会者

奥田太郎

(南山大学社会倫理研究所第一種研究員／
人文学部教授：倫理学、応用倫理学)

創世記2章18節における「人が独りであるのはよくない」という神の言葉は、人にとって孤独と孤立が人類誕生以来の重大問題であることを示しているように思える。現代の日本においても、長らく人々の紐帯を支えてきた様々なものが脆弱化するなかで、2024年4月1日に孤独・孤立対策推進法が施行され、孤独と孤立が国や地方自治体の取り組みべき社会課題として明確に位置づけられることになった。2020年春以降の世界的なコロナ禍もまた、問題の深刻さを私たちに実感させた出来事であった。しかし、孤独や孤立は、思想的には言祝がれることも少なくない。たとえば、哲学者・三木清は「孤独について」という試論のなかでこう述べている。「孤独は山になく、街にある。一人の人間にあるのではなく、大勢の人間の「間」にあるのである。」「あるいは、「孤独において私は対象の世界を全体として超えてある」とさえ語られたりもする。政策的な流れが定まったこのタイミングで今一度、人が人とともに生きることにおいて、孤独と孤立はいかなる意味で問題なのか、つまり、〈独りでいること〉の社会倫理をじっくりと考える必要があるだろう。

本シンポジウムでは、精神医学、教育、宗教といった異なる観点から、孤独と孤立の問題性を改めて問い直し、参加者諸氏とともに、私たちにとっての孤独と孤立の意味について、より掘り下げて議論してみたい。

主催：南山大学社会倫理研究所
共催：上智大学生命倫理研究所

2024年 8月1日(木)
14:00-17:30 (受付開始13:30)
南山大学
R棟4階R49教室



第一報告

「一人だけど寂しくない～健康の視点から個立社会を考える～」

太刀川弘和

(筑波大学医学医療系災害・地域精神医学教授：
精神医学、自殺対策、災害メンタルヘルス)

第二報告

「ハンナ・アレントにおける“一人であること”の多層性
～教育における「孤独」問題への一考察～」

石神真悠子

(東洋英和女学院大学人間科学部任期制嘱託講師：
教育哲学、アレント研究)

第三報告

「一人でいることと、死者との継続する絆」

佐藤啓介

(上智大学大学院実践宗教学研究科教授：宗教哲学、死生学)